摺拾帖

安政五年

同　六年

一

A 00
6010

A00-6010

B 61009

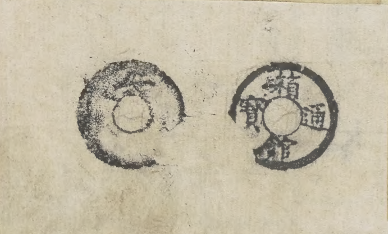
筆陣二妙小羊毫八
體揮来五指労心
晩窓臨十七帖誰知
四友是柔毛

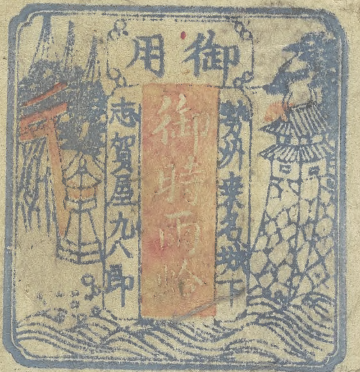
題羊毫己未詩
歴晋菴

安政己未之年
芽子垣内月並兼題
毎月不定日次

春從東来
幽栖妻由
野径雲雀
卯花遠家
池朝菖蒲
氷室忘夏
烏鵲成橋
月多秋友
菊叢競芳
枯野眺望
雪中残雁
炭竈烟細

186
ACETAS PLUMBICUS.
Azijnzuurloodoxijde.

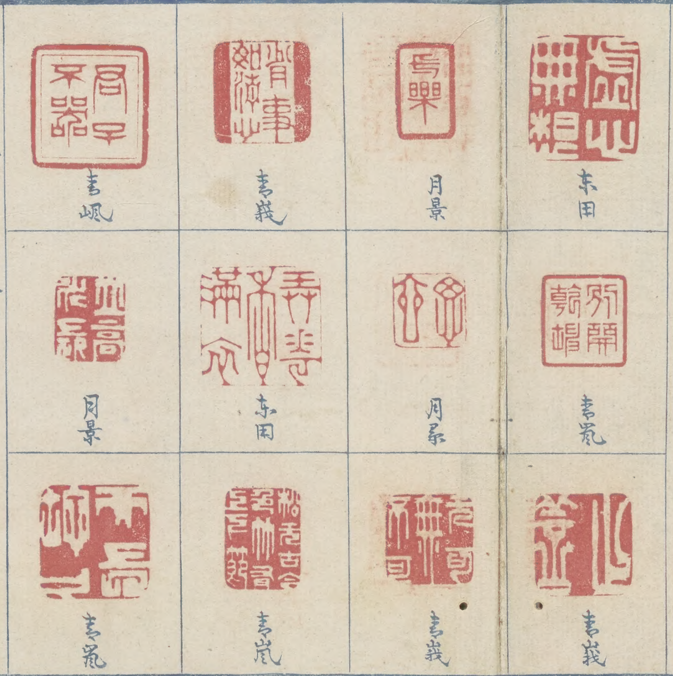




己未歳
印影大小

頃日与書畫者同。席上戯ニ鐫古篆。各得数顆。蓋酔餘漫興。倉卒所成。是以粗陋僨嘗矣。今擇十二影于其中。印之以代己未畧暦。且以供他日憶念云。
安政戊午冬十月
東田余識

白文大　朱文小

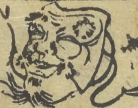


神皇臨宇二千五百十九年
安政年 己未
推古改暦一千二百五十六年
(大) 正三六九十一十二 申未亥卯寅申
(小) 二四五七八十 寅丑午巳戌酉
清 咸豊九年。孔子沒後二千三百三十八年
印度 釋迦涅槃後二千八百三十年
西洋 ジュリヤアン創新暦後一千九百〇三年 ゲレゴリヤアン改暦後二百七十七年
西洋 紀元一千八百五十九年
トルコ國 一千二百三十六年
メリケン 華盛頓創業後八十三年
江揚

尾州
御菓子所
市下押切一丁目
大和屋万助

尾張洋學館藏書
不出門闌
嚴禁貸賣

御膳
三寿し
風流
本家 江戸木挽町五丁目 餅店
出店 名古屋末廣町 江戸屋林蔵

大坂
根元

おきな豆
名古屋日置
平野屋傳助

尾陽
長者町六丁目
御菓子所
菊屋正祐

金米糖

安政六己未年略暦

凡三百五十四日

歳徳 寅卯之間萬吉

正月大 節 立春二日夕七ツ一分 中 雨水十七日昼九ツ二分 節分元日 朔壬申 曜木 西洋二月三日

二月小 セツ 啓蟄二日朝四ツ四分 中 春分十七日昼九ツ一分 朔壬寅 曜土 西洋三月五日

三月大 セツ 清明三日夕七ツ 中 穀雨十九日暁九ツ二分 朔辛未 曜日 西洋四月三日

四月小 セツ 立夏四日朝四ツ六分 中 小満廿日暁九ツ三分 朔辛丑 曜火 西洋五月三日

五月小 セツ 芒種六日昼八ツ五分 中 夏至廿二日朝五ツ八分 朔庚午 曜水 西洋六月一日

六月大 セツ 小暑九日暁八ツ八分 中 大暑廿四日暮六ツ二分 朔己亥 曜木 西洋六月三十日

七月小 セツ 立秋十日昼九ツ 中 處暑廿六日暁八ツ六分 朔己巳 曜土 西洋七月三十日

八月小 セツ 白露十二日昼八ツ一分 中 秋分廿七日夜四ツ七分 朔戊戌 曜日 西洋八月廿八日

九月大 セツ 寒露十四日暁七ツ八分 中 霜降廿九日朝五ツ 朔丁卯 曜月 西洋九月廿六日

十月小 セツ 立冬十四日明六ツ七分 中 小雪廿九日暁七ツ二分 朔丁酉 曜水 西洋十月廿六日

十一月大 セツ 大雪十四日朝四ツ八分 中 冬至廿九日夕七ツ八分 朔丙寅 曜木 西洋十一月廿四日

十二月大 セツ 小寒十四日朝四ツ 中 大寒廿九日暁八ツ七分 朔丙申 曜土 西洋十二月廿四日

九日甲辰日曜 一千八百六十年 正月元日

正月十五日月食皆既夕七ツ八分下ノ方ヨリカケ始メ暮六ツ三分光ヲ失ヒ六ツ七分甚ク五ツ一分光ヲ生シ五ツ六分上ノ右ニ終ル

七月十五日月食皆既夜四ツ七分左ノ上ヨリカケ始メ九ツ四分光ヲ失ヒ八時甚ク八ツ六分光ヲ生シ七ツ三分下ノ右ニ終ル

土 三月十五日夜五ツ一分 六月廿一日明六ツ九分

旺 九月廿六日朝五ツ八分 十二月廿六日昼八ツ三分

彼岸 二ノ十四 八ノ廿四

社日 四ノ十七 八ノ廿四

八十八夜 三ノ晦 入梅 五ノ十三

半夏生 五ノ三 二百十日 八ノ五

西洋紀元一千八百五十九年 平年 凡三百六十五日

正月 三十一日 朔我戊午十一月廿八日土曜	四月 三十日 朔我二月廿八日金曜	七月 三十一日 朔我六月二日金曜	十月 三十一日 朔我九月六日水曜
二月 廿八日 朔我戊午十二月廿九日火曜	五月 三十一日 朔我三月廿九日日曜	八月 三十一日 朔我七月三日月曜	十一月 三十日 朔我十月七日火曜
三月 三十一日 朔我己未正月廿七日火曜	六月 三十日 朔我五月水曜	九月 三十日 朔我八月五日木曜	十二月 三十一日 朔我十一月八日木曜

戊午年辛酉月 丹鶴書院刊

大脇虎之助推歩 柳河春三對校

博采館

1 ワーン	I 一		
2 ツウー	II 二		
3 スリー	III 三		
4 フヲール	IV 四		
5 フアイフ	V 五		
6 セス	VI 六		
7 セーベン	VII 七		
8 アクト	VIII 八		
9 ニーゲン	IX 九		
10 チーン	X 十		
11 エルフ	XI 十一		
12 トワールフ	XII 十二		
0 ニル	零		
100 ホンドルド	C 百		
1000 ドイドセンド	M 千		

A a ア　B b ベ　C c セ　D d デ　E e エ　F f エフ　G g ゲ　H h ハ　I i イ　J j イー　K k カ　L l エル　M m エム　N n エン　O o オ　P p ペ　Q q キュー　R r エル　S s エス　T t テ　U u ユ　V v フ　W w ドブルドユフ　X x エキス　Y y エイ　Z z セイト

尾陽 名古屋本町 御菓子所 杉本屋忠義

尾陽 京町通諸町 御菓子所 吉良屋正續

尾陽 御菓子所

濃州 山形屋 兼山下町 市右衛門

口中あしきをさり はをしろく つやをいだすなり 御歯磨 根元 本家 江戸小石川観音前 亀井製

尾陽 名古屋 御菓子所 柏屋

本町壹丁目 桔梗屋又兵衛

尾陽 津嶋橋詰町 御菓子所 丁子屋信智

安政六年菓屋兼題

毎月六之日　會始正月十六日

二首懐紙

正月　瀧音知春　雪中鶯　増恋

二月　霞遠峰　月前柳　古渡雨

三月　名所花　山吹　頼真恋

四月　里新樹　水茂草　窓燈

五月　鶏声頻　叢中蛍　寄笛恋

六月　松陰蝉　夕立　山清水

七月　七夕風　川邊露　初恋

八月　閑庭虫　月前鈴　社頭祝

九月　雲間雁　紅葉深　両郷恋

十月　朝時雨　残菊　松山

西王母菓子

尾州　御菓子所　熱田築出町　蓬莱屋伊助

筆墨硯　京都成文堂　製筆取次所　名古屋中市場町　生田儀助

名古屋　杉町通呉服町角　御菓子所　吉の屋清水

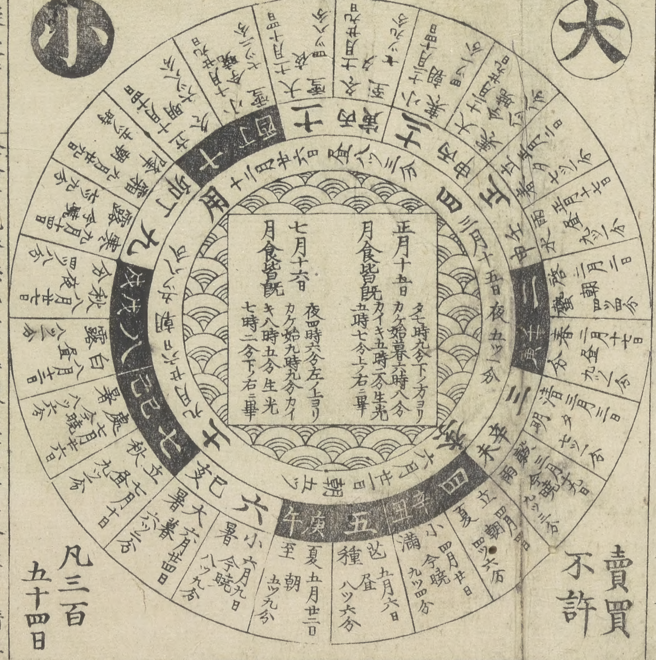
名古屋江川町　御菓子司　一瓢園製

安政六年歳次己未 須弥界由旬暦畧書

賣買不許

大

小



凡三百五十四日

不擬授時頒暦経論所説暦法元無有錯謬唯布算具略推歩精粗要信佛説天地家々作徹差覧者察焉

張府 中野友安

歳徳明方	寅卯間万吉
金神	午未申酉

天赦日	甲子	庚申	八専	天一天上	十方暮
正月七日	二月廿三日	二月十九日	二月十一日	正月廿二日	正月十三日
三月八日	四月廿四日	四月廿日	四月十二日	三月廿三日	三月十四日
五月廿三日	六月廿五日	六月廿三日	六月十四日	五月廿四日	五月十五日
八月十日	八月廿七日	八月廿三日	八月十五日	七月廿五日	七月十六日
十月廿四日	十月廿八日	十月廿四日	十月十六日	九月廿六日	九月十八日
十二月廿四日	十二月廿九日	十二月廿五日	十二月十七日	十一月廿六日	十一月十九日

社日	三伏日
二月十七日	初伏六月十二日
九月二日	中伏六月廿二日
	末伏七月十二日

彼岸 二月十四日 八月廿四日
初午 二月五日
八十八夜 三月晦日
二百十日 八月五日
入梅 五月十三日
半夏生 六月三日

手繰
信濃内蔵路

尾陽 津島横町
御菓子司
東名屋康利

御菓子

上
本町通り二丁目
御茶菓子所
製 中村屋惣太郎

浪華高麗橋壹丁目 大梅園
諸流御名家筆含
南部御油煙墨
諸国名家御硯 所

[illegible]

十六 [illegible]

神田 陶里

西國 玄評

神田 [illegible]

[illegible]

山谷 一婦[illegible]

芝 メ三

庫祐

[illegible]

ポンく主人

[illegible]

福大史

[illegible]

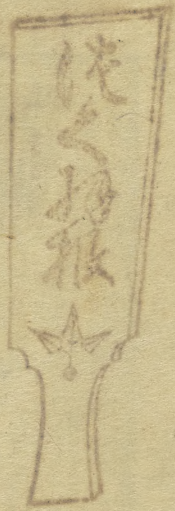
雛谷

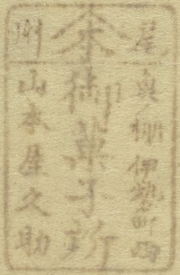
采飲居

八十八

庫祐

[illegible]





大 安政六未月次 小

初春 芽才 正 柳 左義長 白魚
花 蝶 三 春月 喚子 雛
蝉 涼さ 六 夏月 心太 蓮
秋ノ爪 菊 九 木実 鶉 柚味噌
雪 枯野 十一 冬月 ふとん 鴨
冬ノ景 氷柱 十二 師走 餅搗 節季候
春 元 補助 翠柳庵連 八方諸君子

松塘庵評 地評巻
景品 天 木綿一反 十点手拭 七点花扇
呈上 人 煎茶碗五 七句一組三十五点 二組已上一組二十点割
毎月廿日〆七点已上丁摺 十日仕分翌三月へ追加
組ニ每料ヲゆる 翌三月十五日 花州

初午 霞 二 蒲英 菜種 稚萌
時鳥 日傘 四 卯花 更衣 蚊
栗花 蛍 五 皐月 茄子
初秋 虫 七 萩 花火 魂祭
月 雁 八 朝顔 菌 鴫
時雨 落葉 十 十月 巨燵 炭
集所 晴月堂 札之辻 ゴフク丁三丁目 松塘庵

如例年十二月分八翌三年正月ニ追加

当未三月十七日不論晴雨 會主 武山霞岳

書畫會

作ヶ島於本覚寺開筵
四方君子高覧展観
乞ふ御来駕奉願上候

補助

風外 竹峯 蓮池 旭峯
杏村 霞谷 閑月 春水
霞山 耳谷 秋堂 大學
細香 桂園 春堂 霞松
秋水 延高 小瀬洲 錦湖
納高 杏溪 可樂 東園
雪峡 金粟 強葊 等樹

集所 作ヶ島新町 亀屋新助
名古屋本町三丁目 揮雲堂

木村良圃
雙松園記
石黒良策
會山
中嶋
宮田三雄
鈴木容藏
柳田氏記
中嶋孟平

詩歌
連俳
書畫會
安政六年己未二月十二日
於名古屋極樂寺不論晴雨

會主　學樵二村森房
男　森條

昔日吾先人所授画訣之人於今僅々晨星耳獨學樵翁筆与身老益健於是老人又六輩

　(於)卜吉開壽翁筵因顆四方君子當日臨爲且見惠其所需毫器翁与吾人之幸莫之尚也

月樵不肖男
晉齋張行寛

學樵ハ一画ハ月樵叙翁のもとへ予和歌ハ古へ[illegible]とこのもてとり〳〵みやびに心つくされけるが[illegible]の[illegible]のおり〳〵[illegible]かぶれにおりられバとてみやび[illegible]の會ておもひたち[illegible]と又たの[illegible]をいとなむと[illegible]のねがひの家の名にあふ二村山の[illegible]の[illegible]せきまで入きたりてまよひのもとろと秋の[illegible]とみふれかりしもとてよ
[illegible]

幹事
月岱　春溪　清樵　共儀　南秋　九耕　清甫　月観　壽明　玄鳳　壽

補助

京　大坂　江戸　イセ　ミノ　ヲハリ

清亮義文芳公暘隆香盤南掠茁珮静柳月春峯松雪杏秋訥文
暉彦章鱗園圭城古雪谷山林齋芳斫亭島泉水韻嶺村水齋洲

蓮雪九洪春耐文香華秀月雀茂大九長不雲千金麻高華君訥
池峡泉菴鳩軒笠雨陽峰齋丘岳觀皐洲成川虎秋谷雅堂溪齋

操月春月東白翠守星西素柯中月牧三淇梅何月秋立竹桃藍
節村濤真陽受坡亂洲銹軒笛齋嶠山江川雲言滄嶠園溪逕光

元既月青松梅全水梅稔玉梅遂素儁梅金堪曠嘉有雲千泥梅
平玄蟾嵐琴仙一園竹岳村鷹溪洲文老英堂山登陵來溪畝江所

蘭石逸守園石英春雲藍樵月富奇春廣蕃勇江愛圭遊樵遊月
渚巔齋亭中雲山峯峯溪溪景士齋淵仙佳谷溪崖山峰岳玉甫濤

著松宕渭見可秋鶴墨雪湛月季坂太君冂直大顕高美適竹豊
岳岳谷川象墨鄰叟溪潭壺和賡久頼乙澄規政機耀摑政齋莊信

千雅簡豊李義南屈住稲三助春敬軌五了細椽抑為貞政梅尾
尋通足曠良華伸齋樂粂園船護暉一之老我霞亭坡永生次居京

展玩集所
名古屋本町二丁目
同京町通東ゟ四軒東へ入
揮雲堂三右衞門
山田屋儀平

大極上

南京唐針

大ちやぶ
中ちやぼ
小ちやぼ
もめんつき
きぬ綴しめ
きぬ
たくけ
はおし
小むぎぞけ
はむき
きぬくけ
み犬
もめん綴しめ

もり庵評 十五ケ 一組 もり 二ト了

秋も鳴 風月

所本修一反 十五所評巻 帰す切二百了

其余十二下半切百了 七下三千タメニテ京和 呈上

前五日夕切不定 其月中ニ巫物

玉多 画 晴月堂 庵中巻ゟてら

巻中能林

尹藤保住

ちりや宗兵衛

未二月十二日於極楽寺

書画會

會主 学趣 素涼

去年は秋の葉の晩從しが行れとはかりありてそれもしるしく書畫拵さく妻ありに遊びまいらせ日をさだめぶらい四方かつげまつる桜八まづ花さき花あらば桜がよろな萬八した咲のはちかの筆はなとめぐみたまひかざしとれしてそのそひまかくまでうちあつしめたてまつりおびそうろ

会主 学趣 敬白

尾州 櫻町 御菓子所 櫻屋平兵衛

伊勢 吉 小あき河 しさそのいろよ

元祖 教

○一粒[illegible]

[illegible]

[illegible]

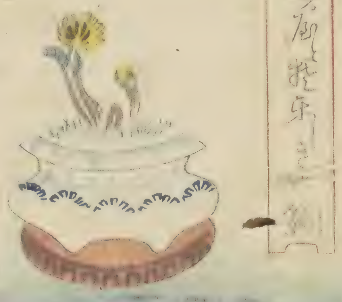
清酒一升 二百五十文

[illegible] 百二十文

大阪日本橋北西ニ入[illegible]

金園堂

[illegible]



口伸

一去午春道とん堀五ツ芝居とも類焼につき中角
きまらぬながら此度を以て正月七日より初日

中ノ芝居 正月下旬より初日

[illegible]

角芝居 正月下旬より

[illegible]

此所ニ宮芝居の大小数 十一ヶ所 八ヶ所

[illegible]

根元 三州吉田本町 合羽屋利左衛門

名産濱名納豆

取次所 名古屋門前町 三河屋吉兵衛

京 [illegible]

呉服御涼物誂所

對山堂

揮雲堂記

玉鳴 東雲堂

御用所
山
元祖
きけ合西礼付
桃花堂御衣せる国
大坂渉重屋製造
江戸大傳馬
町丁目
勘兵衛内人

大阪
○○
[illegible]
角芝居東隣り 芝居茶屋
よし屋治兵衛
日本橋北詰 大宮屋
全國重毅白

尾州津嶋 御用御菓子 [illegible]
順風館監製 記球 玉雲 [illegible]
尾 種物屋 [illegible] 川 北市場

安政五年戊午八月廿二日不論晴雨於尾州西御坊

為 先師法眼梅山翁追善

詩歌 連俳 書畫會

會主 梅僊若林興 探仙

梅山道人丹青衣鉢。幾年全在梅仙身手。云夫花為百卉魁。實為五味長者。梅也譬之文林。花則畫也實則書也。世間但知梅僊之善画。而未知其善書。亦猶彼專重春葩而忽夏實耳。今日追慕道人書畫會。諸賢。以僕言為何似 秦世壽

先師梅山翁。以画鳴世也尚矣。不以予不肖。傳其衣鉢。欲報之德。將如之何。今茲八月廿二日。欲設一瑒雅筵。以延 羣賢。請其文墨焉。四方君子。幸投瓊瑤。光華此舉。則其庶幾乎涓埃之報矣。伏請

興敬白

名古屋傳馬町 挽茶賣捌所 升屋半三郎
小牧飛脚 名古屋京町三丁目 朝日屋兵助 大坂取次所
名古屋江川町 御菓子司 一瓢
尾陽 京町通 御菓子所 吉良屋

補助　四方諸君子

諸君清展観八月朔日迠ニ必以投与こゝろ□ん

執事　雪香齋社中

展観
集所

京室町通四条下ル　古澤玉林堂
大坂奥津裏門前　松下園
江戸両国魚店　扇面亭
肥前長崎桶屋町　松本政之助
尾州名古屋益屋町　山田屋儀平
同長者町四丁目　香米堂

社盟　和致芳　衆香林　昂鷄

酔屋清投粋

笠松本町
御香所
和泉屋喜智

五郎

元祖
清正香

谷正宗

弘めのため今日ゟ七日之間百十六文を[illegible]

一此あらひ布巾は阿蘭陀おらんだの國にて女子ども
までがせんたくいたさばいつでもふきんにてそうじ
のあかをぬぐひとる事なりよりて予その
傳でんをまなびて此ふきんを製し出し此ふきんは
第一いろ白くしていろはやとおし小ぎれび
そばかすをとけしきめをよくしなかのとれ
るもめうなりたびたび製するかんようつかう時は
女中のけしやうにさもよしよくだぶきんに
あら用たる時はおまこ川とならひかげにほし
まいたし置べし　但し火湯はいむべし

本家長崎櫻町　吉野屋彌六製

賣弘所　名古屋若宮前　大嶋屋與兵衛

御紅所

極製
名古屋傳馬町
蓬莱屋總三郎
香御本焼

去ル比より松楽と云酒精造いたし
名府一手ニ売ひろめ申候処天晴心を解
余りともに非識製法造セ候故益く
あつ迄も他人乃心ニ不付候

柳生松楽ヨリ之候
幸右衛門二丁目 加島屋常右衛門店ニ而
諸卸小売共被 仰付候 何卒御賑
求メ被下候得ハ 誠ニ 難有 仕合ニ 奉存候
以上 御用向多分之節者 御沙汰奉希候
松楽 主人 敬白 已上

ENGELSCHZOUT.

Owari Nagoja Tonmati

撰製エゲレスソート

西 味 [illegible]

Itoja Genkitsi

本町八丁目	松村屋源助	
傳馬町五丁目	菱屋久八	
京町通茶名町角	かゞや伊兵衛	
袮宜町	野尻屋久助	
小舩町	橋屋源藏	
巾下江川町	金澤屋伊平	
西枇杷嶋六軒町	飛脚 ㊄	
東田町	小西徳兵衛	
赤塚壹丁目	美濃屋徳右エ門	
出來町	小川屋平吉	

京町通新町	上田屋善四郎 志水
	万屋孫市
同 中市場	冨野屋新右エ門
杉ノ町呉服町角	鈴木屋六八

大坂 [illegible] 町
人參 [illegible]
御免調合所 [illegible]

産 来名舩場
名物御漬物
中村屋八十吉

煉羊羹

名古屋博労町
御菓子所
泉屋万助

尾張伊藤
圭介之記

本家
大唐米山椒
慧以仁陳皮
香茴香右加減
煎 京都祇園原了郭

吉田本町
合羽 [illegible]

本町八丁目　松村屋源助
傳馬町五丁目　□屋久八

安政六未春
知多郡大浦店賑
神谷本店製

口演

許々御且那様方ニ御奥賀当四月六日
目出度開店仕候当日御祝ニして御買上
御方々様へ粗末なる景物進上仕候

現金小売直段

極生清酒

松楽印	壱升代	弐匁七分
たいこ印	同	弐匁五分
精花印		同
銀泉印	同	弐匁三分
折蝶印		同
鶴亀印	同	弐匁

右之通り御直段ニ而売下ヶより少々ハ高下可仕候
新店之儀ニ御座候ニ付当分現金ニ而諸卸小売共格安ニ
相働キ申候間何卒御山清御用向被仰付
可被下候様偏ニ奉希上候猶又入御用之節ハ御知らせ次第早速持参可仕候

未巳月

末廣町弐丁目
麹町酒売捌所　加賀屋常之助

根
中十押切町
太白真米
本
屋佐平

名古屋本町十丁目
砂糖類
光屋佐右衛門

尾張
大黒
陽豆
本町五丁目
柳菓子司
京屋清績

中小

根元
馬喰町
村田

安政六己未年月次發句合

尾府 青樹園如儞宗匠評

一組入價三十五孔 [illegible]

正月	二月	三月	四月	五月	六月
[illegible] 余寒 梅 鶯	霞 山焼 乙鳥 出替 彼岸	桜 雛 春風 汐干 [illegible]	蚊 木下闇 [illegible] 卯月 更衣	早苗 [illegible] 川清 [illegible] 幟	雨乞 土用干 夕涼 [illegible]

七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
野分 [illegible] 木槿 [illegible] 踊	秋季 生類	[illegible]	氷 [illegible]	[illegible] 氷柱 [illegible]	[illegible] 年 炭 [illegible]

巻頭 上直紙壹束
巻軸 同 五帖
十点頭 上直紙壹帖 評巻
平拾点 [illegible]
七点 [illegible]
七十以上 [illegible] 上梓 [illegible]
一條 [illegible] 呈上
毎月十五日 [illegible]
[illegible]

神助 四方諸君子

巻本 東陽連

[illegible] 校 [illegible]

未年 摺物發句合

正月之部 乱題

大鶴菴仙鶴宗匠評

巻頭大半紙一束并直綴一帖 [illegible] 宗匠筆摺物十点以上 [illegible] 十点 [illegible] 九七点以上 [illegible] 一統 [illegible] 呈上 [illegible]

尾州大野 [illegible]屋 [illegible]

一 御幸せんべい
一 吉原せんべい
一 二枚せんべい
一 [illegible]せんべい
一 [illegible]せんべい
一 [illegible]菓子 [illegible]

[illegible]

[illegible] 八 [illegible] 屋 [illegible] 七

二月五
二組以上一組金四十ノ割

王句 本句札迄 晴月堂
届所 巻本宅え

巻 華夕 竹庭 喜泉 本 富三 卓琴

月次丁数減し候ニ付、為仕守り

青音 福生院鈔秦了嘉燈
石明
花の春 茶を 梅と為 柳 海苔
法月先生評 七句一組入花十六冊 弐組二十冊
嘉瑞 六歌仙 風呂敷 一
細挿木 茶 半紙四十人 前
十五扇子七 五 花

毎月八日夕迄 十二日 春夜 大津 屋 丁目
澤瀉園 歌仙 無利 十八日 中
御句届 札迄 晴月堂
添 九日迄 元 紫木連

二月 鯉月 千代 接木 蛙 猿
三月 出替 雲雀 草餅 蜆
四月 短夜 扇子 菖 花御堂
五月 入梅 職 素袖 灸 鵜
六月 暑 青田 堤 沖膾 白
七月 秋風 芋 御魚 盆 雲
八月 月 花 渡り 秋の来
九月 秋 案山子 菊 紅葉
十月 霜 茶の花 紅葉 川 切干 通
十一月 雪 落葉 蘇 稀 和 鶴
十二月 臘 冬 芽 炭 寄 庵

押照難波乃浦乃萬椀高
津乃御世尓渡來之文書
遺乃器物觀尓遣医賢
何国者有新石尓之
乃国乃高嶋乃淵山
切出須此堅磐尓意久石
者阿良自
本山元

名物
源氏豆
養老麓
和泉屋

御幸せんべい
其外御菓子品々
若松屋榮治郎

つくま孫

口演

一水瓶　一油瓶　一藍瓶
一焼酎瓶　一茶壷　一せん屋い瓶
一きびせう　一徳利　一かん壷
一肴組鉢　一伏越之杁

右之外陶器類品々今般
常滑村より出売仕候付為御披
露格別下直ニ差上可申候間
御用澤山ニ御作付ニ不限御求
願上候以上

未二月

名古屋西水主町
常盤屋正吉

尾州名古屋
松
本町通拾四丁目

揮雲堂

一 現金かけ袮なし
一 諸筆墨類 硯しけ類
一 朱肉墨ふく 繪具香具
布名外味棋用上品物并[illegible]

名古屋本町[illegible] 清水屋[illegible]

未正月十五日開運福引

多門天王本閣上り

一	米八や林や弥七	分 部
二	かじや口 おさ[illegible]一[illegible]	
三	ウ治村 [illegible]	
拾	カザ庄口 [illegible] / 分口 栄八 / 江戸カウジ住[illegible]	
々	マツサカイヨキ [illegible] / [illegible]平[illegible]羽	
節	チタ半田[illegible]宗[illegible] / 田常 う / いとう 利八	
平	[illegible]の福人	
弐	チタ大ノ カゞミ[illegible]	
百	大清口 大[illegible]	

花閣上り

一	ナラウ [illegible]
二	[illegible] / 京下 三川ヤ
三	[illegible]丁 川内や弥[illegible]
拾	住吉丁 大工[illegible] / [illegible]井[illegible]
々	川[illegible]口 川 / 福[illegible]口 [illegible] / [illegible]一[illegible]
節	宮シヲカイ[illegible] / [illegible]下京口[illegible] / チタ中[illegible]
平	[illegible]
弐	ひーキロ 小吉
百	チタ西ナラハ 大西久[illegible]

尾陽名府清[illegible]寺護國堂多門講中

御菓子所
中下大津[illegible]町
[illegible]

[illegible]ひのり
[illegible]
[illegible]

尾府
御菓子屋
中下[illegible]
一[illegible]

煉羊羹

勢州射和
伊勢輕粉 正味貳拾目入
十六軒竹金 正製

伊勢 射和 輕粉 釜元 改

竹川金助

大 安政五年戊午 小
大 二五八九十一十二
小 正三四六七十

支那 咸豊八年
如徳亜 五千六百十九年
儒略安暦 一千九百〇二年
傑氏改暦 二百七十六年
哪嗎 二千六百十一年
歐羅巴革命 一千八百五十八年
多尓其 一千二百三十六年
米利堅 八十三年

柳河氏刊

風流

價無二

四海家傳法
東雲堂筆
和漢撰之毛
諸君子應需

大阪
唐墨調所
四海東雲堂
玉嶋甚兵衛

未ノ八月ヨリ名府表へ出法仕候
通来御ゝ分御気ニ不入ら之候故判ニ押書印 當
此度黄紙ニ判ヲ仕立候間御吟味之上御求可被下候

甜雪糕

余家甜雪糕一名玉母䭾其製以陳
倉米為帯以氷糖為相良蘇為之更
相和為末以鶏卵為其色也較黄其味
也甜美其消如雪則講不容舌口不
膠病者和腸胃醉者析酲其功不
為不多自以為甚欲之雅稱其名之
謂与否伏待君子之賞
上京嶋堂

杜鎮山艸影

千顆印之其一
藍光河村澂篆

清和院御門前寺町廣小路角
御香具司
禁裏東御所御用 佐糸新次郎

長崎の海辺也件の魚大なる神社之姫魚
七ヶ年豊作ならず我姿を見せ此日を
今日として信仰いたし候者ハ萬年ハ長国に
萬りゆく長寿の縁をあらハし[illegible]
[illegible]
[illegible]に請て曰是也ハ
七ヶ年以前入る事ととも人不死
して大海に住へ一年のうち漁を
[illegible]今年ハ[illegible]
[illegible]
三コロリといへり我姿を
[illegible]
[illegible]人ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]と云[illegible]て
海中に入[illegible]
[illegible]

本草綱目飴餹ハ虚冷を補ひ氣力を
益し腸鳴咽痛を止め唾血を消し
痰を消し肺を潤し嗽を止め脾胃を
健にし中を補ひ甚しく吐血打損瘀血の者を治し
數年して酒を服し脹を能悪血を下し又傷寒大毒嗽ハ蔓菁韮汁の中に
於て煮こと一沸して頓に之を服すとし脾弱食を患ひざる人少し用ゆ
能胃氣を和すこと されバ尋常の飴餹さへも斯る功能ある物なれバ
况や極製濃煎の萬歳の飴に於てや其功能すこぶる廣大なり則ち蘇
生散湯の飴ハ至寂の德善や萬業の名薬ありて數多く後ども重宝なる彼
損なへる製法なへ味ひもよく能もよく愛敬ありて新出の華立の人々
衆人の身の為で未充の功を照らし又目出度き飲み食の司やわらぐ至の為
理言ハ本と建目はぶ家へ一切ハ濃煎飴に極製万安を安堂に地より
下直をつとし商ひ出高住んと謹て張込人八町ぬ思ひて重寶やおとしの

浪華 名製
萬歳飴
和漢聖監造法 以家傳術烹煉
丈婦老幼常用 經驗萬能靈飴

本家 釜元大阪中之島 湊橋町
萬歳飴本家 藤原久徐製
所用飴製造販所
賣弘所 尾州名古屋松町
日野屋治兵衛

大	小	正 戊寅		二 丁未		三 丁丑		四 丙午		五 乙亥		六 乙巳		七 甲戌	八 癸卯		九 癸酉		十 癸卯		十一 壬申		十二 壬寅	
安政五戊午略暦	歳徳 明ノ方 巳午ノ間	中 六日 明六時二分	二月セツ廿一日 暁七時六分	中 七日 明六時四分	三月セツ廿三日 朝四時五分	中 七日 夕七時七分	四月セツ廿三日 明六時三分	中 九日 夕七時六分	五月セツ廿五日 朝四時三分	中 十二日 暁七時三分	六月セツ廿七日 暮六時六分	中 十三日 昼九時八分	七月セツ廿九日 明六時七分	中 十五日 夜五時	セツ二日 朝五時廿分	中 十七日 夕七時六分	セツ二日 夜四時七分	中 十八日 暁八時一分	セツ三日 暁九時九分	中 十七日 夜四時四分	セツ三日 暮六時一分	中 十八日 朝四時七分	セツ三日 暁七時	中 十七日 夜五時九分
	金神 子丑申酉	半 五十刻	半余 五十二刻	刻 五十五	半 五十七刻	半余 五十九刻	刻 六十二	刻 六十四	余 六十五刻	半余 六十五刻	余 六十五刻	刻 六十四	刻 六十二	半余 五十九刻	刻半 五十七	刻 五十五	半余 五十二刻	半 五十刻	半余 四十八刻	刻 四十七	刻 四十六	半余 四十五刻	刻 四十六	刻 四十七
凡三百五十四日	昼後六六迄 夜後六六迄	半 四十九刻	余 四十七刻	刻 四十五	半 四十二刻	余 四十刻	刻 三十八	刻 三十六	半余 三十四刻	余 三十四刻	半余 三十四刻	刻 三十六	刻 三十八	余 四十刻	半 四十二刻	刻 四十五	余 四十七刻	半 四十九刻	余 五十一刻	刻 五十三	刻 五十四	余 五十四刻	刻 五十四	刻 五十三

彼岸	八十八夜	出梅	半夏生	冬至
二月四日 八月十四日	三月十九日	五月十六日	五月廿三日	十一月十八日
社日 二月二日 八月十六日	入梅 四月廿七日	夏至 五月十一日	二百十日 七月廿四日	十一月八日土水性人ウケニ入

朔日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	廿日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日

天赦日 三月二日 五月廿日 八月六日 十月廿三日 十二月廿三日
天一天上 正月十六日 三月十七日 五月十九日 七月廿日 九月廿二日 十一月廿三日
庚申 二月十四日 四月十五日 六月十六日 八月十八日 十月十八日 十二月十九日
甲子 二月十八日 四月十九日 六月廿日 八月廿二日 十月廿二日 十二月廿三日
十方暮

大将軍 卯ノ方 未年迄 三年塞り
三伏日 初 六月六日 中 六月十六日 末 七月七日
土用
春 三月四日 昼八時三分
夏 六月十日 暁九時六分
秋 九月十五日 暁八時九分
冬 十二月十五日 朝五時二分
小寒 十二月三日 暁七時
大寒 十二月十七日 夜五時九分
八専 二月六日 四月七日 六月八日 八月十日 十月十日 十二月十一日
血忌 正二三四五 丑寅申卯酉 六七八九十 酉辰戌巳亥

たる方こまで重宝がられ御求め下されたる上ハ御退屈なく御採用致させ
て先年より一門にハ福寿長命の生力へとつき多く宝も絶へ万端御飴
其外余念なく家業を専とし候お引立に其余色々に勝り立てハ
候をも一切の飴類何品によらず御望次第調進仕り候
飴其外色々諸国の飴まで製法によりては万歳飴ハ申に及ばず右の
品々御用に随ひ其品も上等に仕り候、御年中御贔屓御願申上候
おひあげ奉り候以上謹言

(一此度当所取次賣弘所相定候に付御求め下され候様奉願上候)

御用飴糕糖司 波多野丹波藤原久保謹製

製法釜元 諸國積送所 大阪中之島船津橋南詰 萬歳本店

賣弘所 尾州 名古屋本町壹丁目 玉屋兵右衛門

同 枚町通七間町東江入 日野屋治兵衛

一 まんざいあめ切やう並ニ料理のしやう

○此あめ切やうは庖丁にてもはさみにても白き粉をつけて庖丁をおさへて一つつ切
切口をよくねりおけば、あめかたまりてもはなれず、又此あめ平生茶のみ間食
の料理又用ゆる時ハあめのかたち二三分大きさハ好みにまかすべし
○ぜんざいにハあめ切さげ入れ、ぶどう豆のあたまに白さとうを入れへ
ふた吸物にハあめ三ツ切入れ、煮たてそのまま出すべし
○まんぢうの類にはあめを入れ茶のみにも好し、又ハ焼きても初めも
みそ類のくわしその外なんにても精をつけ、鳥見ずそのまま用ひの肴
いまだ煮さし入れ、あつさに出すも好し、又やき煮付入れかげんよろしく
○吸物に熟さかけ、煮物のりきつのあつさいり入れ、あへもの山せうの芽又は胡椒
○さかなのこんだて、かつて干魚などのとじ又ハかけて白水にて煮る事へても
かんてんくいし和え、海山のさかなに用ひ、又組付にもよし、あへもの
○諸引汲けこの組付にまんさしそ、こんハ三とうしの類もよし
一 又本膳料理ほうちやう、右料理方にいたして料理天狗の書

千とせん

奥ノ稲通り呉服町西へ入

梅鉢屋又右衛門

廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	晦日

正月七日 三月八日 五月十日 七月十一日 九月十二日 十一月十三日

十二支 甲子 此日天赦日ニ当レバ血忌ヲイトワズ 其月ノ節ヨリ其後月ノ節迄ヲ其月トス 来ナカラセツ入前日ハ後月ニ当ル 十二支ヲ血忌トス

月帯ソク 明六時一分 正月十五日 左ノ下ヨリカケ初 六時三分 二分ハカリカケナカラ入 東国ニテハアサク西国ニテハフカクハルヘシ

月ソク五分 夜五時八分 七月十六日 上下左ノ方ヨリカケハシメ 四時六分 上ノ右ニ甚シク 九時四分 右ノ上ニテワル

十一月 九月 七月 五月 三月 正月 十二月 十月 八月 六月 四月 二月

甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥	甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥	丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未
甲申	乙酉	丙戌	丁亥	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑

以七曜暦製之

大小早おぼえ

めでためで

たのぢぐと

だぐ

安政三年丙辰大杉堂詩文課題

正月十四日　春初登樓即目　南極老人駕鶴圖　　廿四日文　竹裏聞鶯　強兵論

二月四日　幽居春雨　紙鷂　　十四日　春江漁艇圖　落梅

廿四日文　春山尋花　坂田金時傳

三月四日　瑶池春宴圖　踏青　　十四日　花下歩月　春眠不覺曉

廿四日文　摘茶　送青帝序

四月四日　晩櫻　柳塘晩歸　　十四日　夏山烟雨圖　杜鵑花

廿四日文　夏日田園　東照宮神祭記

五月四日　松陰小憩　水亭觀螢　　十四日　山静日長圖　觀揷秧

廿四日文　灌園　君道論

六月四日　出游値急雨　苦熱　　十四日　碧梧翠竹圖　夜聞風鈴

廿四日文　晩歩逐涼　臣道論

七月四日　七夕立秋　蓮池秋雨　　廿四日文　奇石幽蘭圖　擬與亞墨利加人書

八月四日　秋野　海上秋望　　十四日　中秋前一夕山樓小集　蘆雁圖

廿四日文　秋夜讀書　秋日游某別墅記

九月四日　秋菊有佳色　重陽獨酌　　十四日　豐年農慶圖　霜葉

廿四日文　夜行古戰場　酒說

十月四日　冬山如眠　霜晴　　十四日　後赤壁賦圖　茶梅

廿四日文　掃落葉　政論

十一月四日　冬曉　冬雨　　十四日　鄭綮驢雪圖　寒梅始開

廿四日文　山中寒夜　名書齋說

十二月四日　雪中寄友　寒林暮鴉圖　　十四日文　歲暮書懷　言志

戊午十一月廿五日於圓頓寺

書畫會

會主 己匡

補助 諸君子

展觀集所 本町十丁目

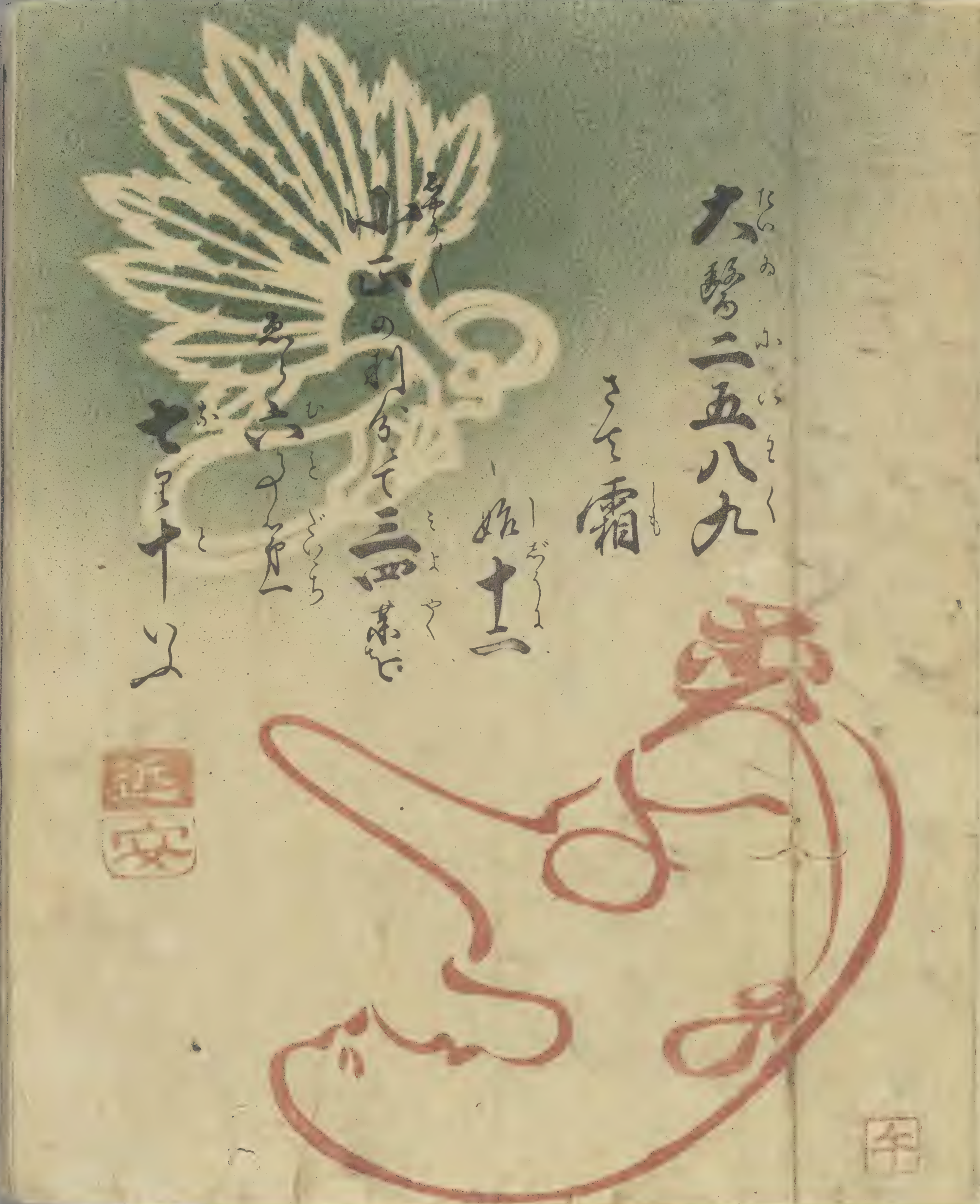
慶雲堂東平

山本ういらう

胡椒餅

金米糖

尾陽 御菓子所 京町通諸町 梅壽軒吉良屋



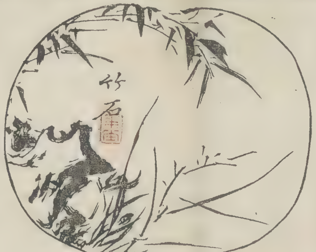
来ル　月　日種痘日ニ付而　時種痘所ニ罷出可申候
若シ差支出来当日ニ罷出難相成候ハヽ其段前之日迄ニ申出可申候
但種痘後四日目ニ引痘之医師宅ニ罷出相成出痘之様子診察可受有之候事
一 次之種痘日　日ニ付而必種痘不可例刻罷出可申候真痘
偽痘之様子鑑定且右痘苗を以植継申候事

広小路通り大津町
西ニ入処御所
種痘所

丁亥四月五日
於七寺

書畫會

四方君子垂
顧是祈
會主洲齋



精一 永年 葉六
鵠巣 是空 桃逸
太乙 玉溪 二田
訥齋 三丘 呉江
華堂 擬堂 蘇川
梅山 月岱 秋嶠
麻谷 竹外 在靖
高雅 霞山 既玄

天下文章莫
大乎是一時只
士皆落吾游
洲齋書

展觀集所
本町二丁目 揮雲堂
同八丁目 重九堂

戊午
擁鼻吟社月課題
春風如少年
柳陰遊駒
水上覓紅雲
古劍篇
枕上風鈴
盆魚
書中枯蟫
李白泛舟圖
銀杏村懷古
霜曉炊烟
釀雪謡
撿殘曆有感
琴堂市野俊章

梅ぞのでんがく

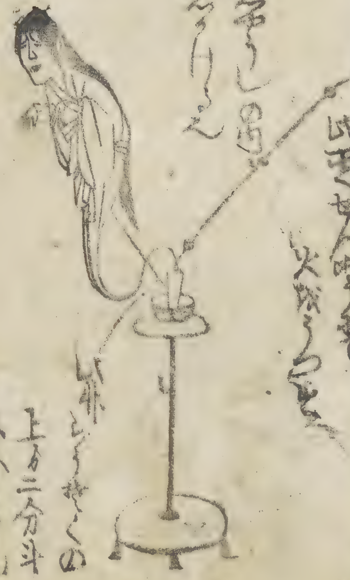
丹波
名物
山[illegible]

御門外南佐柄木町
京御菓子司
大和屋近江掾

雪の梅

ちやうしよ二人手月と向け
ちるまも三人見えしてらうそく乃
ちやうしさしハ恩ぞのまくはし　也

ちやうしの遺
ちゝけらえ



此西へせんめうまで
火ばちつき

上方二人分斗
下はさす

一二山人

しめ縄ハ五七言
門松のこゝろを絶よ
要ハ詩酒こそ
まめのした

東雲樓星露

はるめ進ハ来る春をまちとまりけつゝ
粉のこやさしく餘保しけり都

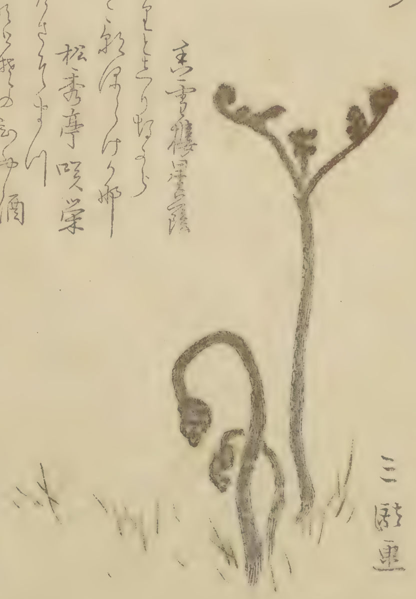
松壽亭咲栄

霞みにも絶の富士よりゝしさも中川
ゆかほしとうくみる飛の初中酒

緑芝園道縄

こゝもとの川若菜ハ猶もよあさこゝり
もりのよ枝よ粉つむりくもし

君か為きる若菜に申ふる道よゑむ遊ひて底のはまの松　緑亭


三囲画

中洲庵炭巻絵

織込之詞

[illegible]

十ケ一組 八合四ト入

五十五匁 [illegible] 一挺

三ケ石皿

本町札の辻

晴月堂 [illegible]

御饅頭

五[illegible]

名古屋 本町四丁目
御茶菓子
岩井屋安近

平田町
市川氏御製

金瘡御藥 諸瘡一切によし

乾膚膏 やけど小瘡かさ・むせんたむし くさるかいいんきんころびしもやけによし

右諸薬ハ如何様ニ痛み候瘡口にても即ち及快治誠ニ無双之妙薬ニ付此薬取持被成候而難渋之向ハ若造ハ格別ニ候御免被成下候様奉願上候
[illegible]

名古屋東名町三丁目
美濃屋九兵衛

御頼所

御白粉所

名古屋茶屋町六丁目

[illegible] 正七

江戸仕立

[illegible]

本町九丁目
[illegible]

嘉永辛亥 太古山荘詩會掲題 荘在東山 會期毎月十五日

正月 廿日	東風觧凍	梅鶴高士圖
二月	紙鳶	春郊[illegible]牧圖
三月	杏花巖	蘭亭脩禊圖
四月	採茶	乗風破浪圖
五月	蕉陰對奕	[illegible]戰艦圖
六月	琥珀杯中金[illegible]	北窓高臥圖
七月	河橋觀螢	安倍仲麻呂見月圖
八月	水中[illegible]字	郝隆曝書圖
九月	松花菌	剪燭話雨圖
十月	寒林歸樵	龍田川圖
十一月	枯菊復花	雪山佛刹圖
十二月 五日	消寒小集	鷹狩圖

尾張呉服街 伊藤清 拈拜

御保命酒
尾州御名酒屋太助

名古屋本町六丁目
かどや正七

呉服太物商

丙辰三月十日於知多郡伊布里正法院○当日雨天ナレハ快晴次第

詩歌連誹團扇

松下翁追善書畫會

會主 瀧水禅師

松下翁性耽文墨距今十二年前以病没生前継其志以丙辰春三月十日第九忌于伊布里正法寮院其五方諸彦挂賀以助雅致焉書生等之榮何也哉翁又應祝於地下若以事不能來者寄祝詠筆幸甚

生親代 遠呈 瀧村義書

補助

（ナゴヤ）月斎 春江 麻谷 梅山 水竹 訥斎 高雅 華堂 玉渓 梅所 月戴 月岱 既玄 㚑松 竹庄 操節

周之 春岳 揚洲 石巓 尭逸 淇川 浦堂 雲渓 千虎 愛山 三丘 梅岳 清渓 玉應 素文 竹渓

尾亰 梅渓 （ナガト）玉儒 （イセ）半谷 （ミノ）茬峯 （ミカハ）香雨 呉江 月嶺 仙嶺 山石 雄平 （クツカケ）両郡 （カサデラ）嘉陵 （アラ井）石雲 （大ダカ）湛山 （大ザト）衣洲

（大ザト）文清 呂渓 徽處 （ヨコスカ）英山 蟻足 守亭 英岳 敬簡 一武 隆沙 守斎 景海 廣洲 （カギヤ）鸎鶴連 （ヤブ）圭谷 （ヨコスカ）玉林

（コミ）如菜 （オカダ）淵屋 蕉鹿 （セノ）秋苑 柳涯 雲林 篁斎 栗谷 射山 （トコナ）養雪 春汀 一調 呼鳳 （ウツミ）指月 豊雪 渓海

（ウツミ）宗元 岐山 （モロサキ）沷郷 （ナラス）月磯 寄陽 如是 （ハンダ）快哉 錦水 兜翠 成美 半島 （カメサキ）巌雄 （アリマツ）天谷 （ムラキ）一香 （キヨヲ）月濤 甫堂

輪車

（京）篁邨 （ミノ）證阿 隆意 江月 （ミカハ）好文 （ナゴヤ）雪川

（アツタ）至一園 保實 （一ノミヤ）波浄 （中ノ庄）恵禅 （ニイヤ）眉山 （カサデラ）路橋

其朝 （ナ）義久 文之 松斎 （タ）柳泉 豊米

濡空 秋山 玄豊 覚豪 竜眠 翠斎

芦庵 冂月 負慶 愈好 梅翁 泰園

一雲 恵言 長秋 五清 其玄 秋鵝

梧峰 丈栞 至信 梅亭 香雪 秀阿

展観集處

ナゴヤ本町八丁め 菱九堂宗右エ門

い 末廣町 東明堂伝八

チタ横根村 壽皇堂庄八

江戸

よし町親仁橋角

ゑさうし

錦繪問屋

山本平吉

浮繪摺物一切仕候

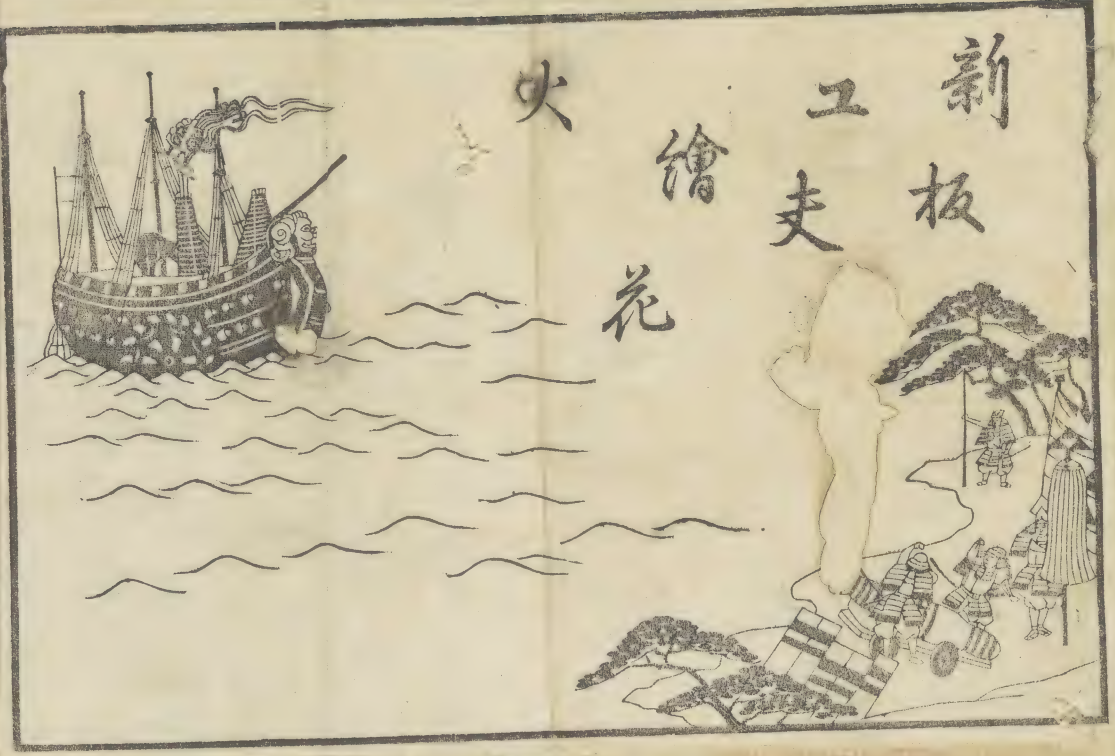
旦画

一竿も林となりはらまや
黒雲や山ともなる雨耶
はるかのきし此聲
帝みるもかゝぬちのゆ
しまれる縫
旦松

戊子春

現金 太

畳表 蓙
麻布類
綱糸麻類
大安賣
名古屋本町いつゝや太助



京四条通御旅町南へ入
萬塗道具類所
神吉屋新之助

きひや
此ひおしろいの名のもとは
やくしまひ粉をつけて色をよく
すきとおるこまかな粉 [illegible]
はけそう
東都芝塩町南側中程
御寿軒製

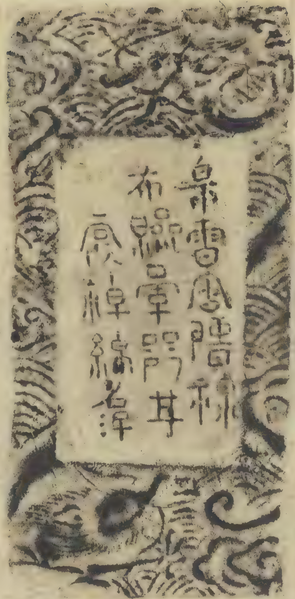
此粉二十八ヶ年来 [illegible]
御はしろい [illegible]
きめの [illegible]
御はみがき粉薬
[illegible]

アメリカ

火輪船之圖

大船四艘
長サ八拾五間
横三拾五間
大筒三拾挺
石火矢十二挺
小筒五十二挺

小船二艘
長サ四拾間
横二拾間



支那カステイラハ其原阿蘭陀将来の佳品なりしを予か先祖紅毛人より製煉薬品多量悉皆さづけられしを常に精製し茶菓酒肴として服用せしに五臓を調和し腎力を益し精気を潤し気根をつよくし諸虚百損を補益するの功ありて老を養ひ寿を保つ故に国人を強壮のいちじるきを見聞するが故所望日々に繁し……

御用ひやう ○御茶受御口取御法事のお菓子に極品なり

暑気の節は ○冷泉にひたして用ひ至ておいしく

寒気の節は ○ふた物に入て湯さして用ひ又焼しかはなほよし

酒肴の節は ○大根おろし山葵のかけ汁にてもちひ

○茶碗蒸あつものの取合せ……

○吸物煮ものさし込料理とりの取合に……

○遊山旅行に御用ひ……

御進物箱入……

長崎 本博多町 和泉屋長鶴

京都 売弘所 烏丸二條下ル西側 越後屋又次郎

天下一本湯一葉撰

御菓子司 松園

名古屋 魚之棚

極上新製本家細川

羽二重温飩

信州松本[illegible]

[illegible]製

京都出火

北ハ[illegible]

河原町[illegible]出火いたし

南ハ七条通東本願寺[illegible]

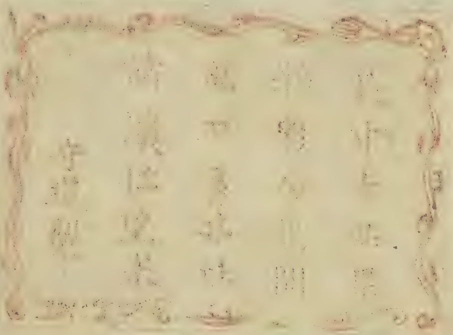
[illegible]

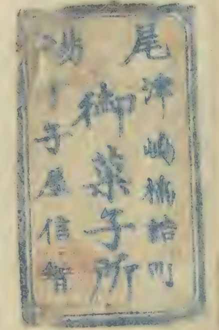
西ハ新町[illegible]

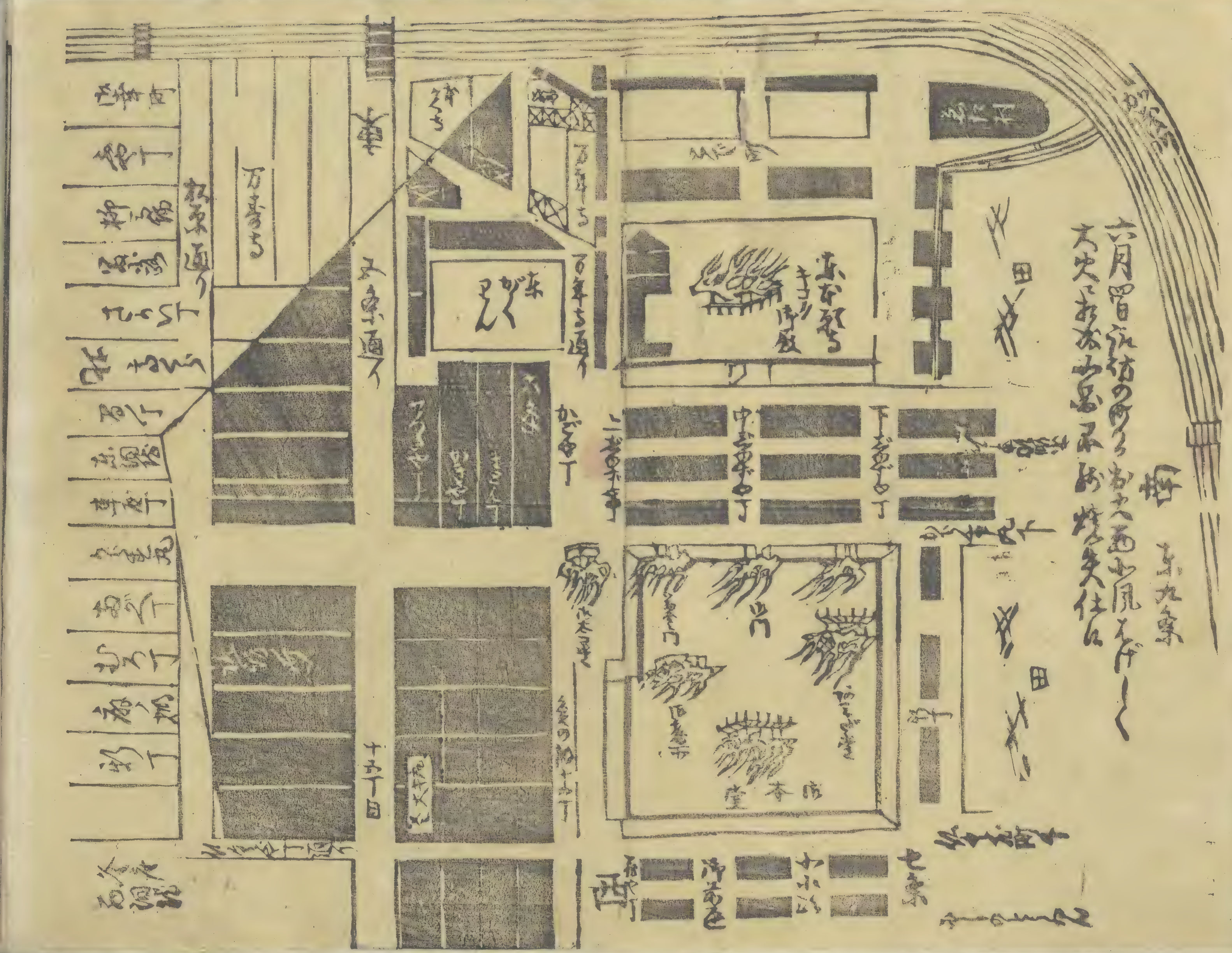
人々[illegible]

正法院様焼失

[illegible]







東九条
七条
西

ひきうすね茶

三加三園
寺水軒製

ひきうすのたゞよふく
あぶひめまてる所へ
此粉を七日の中のまゝり
こみつけるなり

丹品
名菓

御楊巻師
小笠原待七

御菓子

御用
御菓子司
禁裏 京町
井筒屋製

のし はさみ

今井製

現金正札付掛直なし
當流 ㊂
御注文之品…
御紙入煙草入
仕立方上中
名古屋本町十丁目
三輪屋源六

當十月廿五日より賣初

江戸製

二八	三八	四八
うどん	ちかはき そば	てんぷら蕎麦
二八 きしめん	四八 志っぽく	同

各様益御機嫌能被遊御座恐悦至極奉存候
随而私義数年来うどん屋渡世仕来候処以
御蔭日増繁昌仕冥加至極難有仕合奉存候
然ル処此度右御礼として諸品格別吟味仕
大安売相始且新製売始申候間多少不限
御用向被仰付下置候様偏ニ奉希上候以上

伝馬町伊勢町東江入
萬屋伊右衛門

御墨筆所

南都 中山堂筆惣

本家 七味 唐がらし

本家 七味 唐がらし

本家 上製 七味 唐がらし 尾州名古屋

尾州

名古屋

一佛乘

佛說無量壽經言佛所遊履國邑丘聚靡不蒙化
天下和順日月清明風雨以時
災厲不起國豐民安兵戈無用
崇德興仁務修禮讓

安政三年

辰

大小

大仁者清

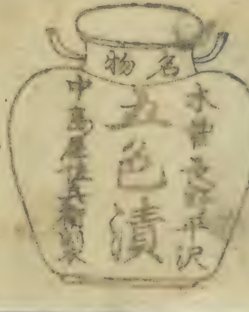
小人者濁

よがぶつでか
だやらまげな

上大位權少僧都正定閣

八十二才

勢州こもの湯の山
黒もみしやうし



御茶所
美濃部忠兵衛

信州伊奈部町
梅本製

名古屋梵暦社中摸刻印施

廣小路
種痘所

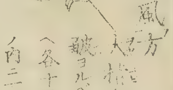
長尾左仲

名古屋
呉服町六丁目
御菓子所
江戸屋伊助

外良

尾州
呉服町
致知屋喜九郎

預防中風方



大指ト食指トツケ合スレバ手ノウノ此所ニ皺ヨルベシ其皺ノ端ヘ灸スルコ左右両手ヘ各十五六壮ヅツ月ノ初朔日ヨリ三日マデノ内二度スレバ可ナリ生涯一月モ怠ラズレバ必中風ノ患ナカルベシ

中風ノ發リタル即日ナレバ六七十壮モ灸スレバ必復藩スルモノ也二日メ三日メニ至レバ初日ノ如クニ效ナクトモ快ナルコ必セリ三日ヲ過レバ愈カタシ

中風之冒人猶磁器受劈痕者已劈而補之不若防之於未劈也予家世罹此患莫得免者一日謀諸越國手國手曰先師水月翁亦世罹之闔族不免翁常憂之預防以此灸且謂凡灸之防中風其方雖多未有若此之得奇效者也故予欲使蒙世患之若予者預防之刊梓以須天保戊戌四月朔伊勢三川山田

飛識

津島
大和屋彌三良
神領

大宮春秋
阿賀多
条是適尼
也

水谷助六先生追薦
本草會
乙未三月十五日於名古屋
南寺町一行院
嘗百社

安政六年

御
白雪糕
上製

御用
御菓子所
本尾州津嶋上切町
家 河内屋喜平治

本町通若宮前
みのや孫助

美濃名所圖會

全部二十巻

尾張人　文園岡田啓輯録
春江小田切忠近圖畫

初編五冊

一之巻　岐阜　　二之巻　厚見郡
三之巻　方縣郡 席田郡　　四之巻　山縣郡
五之巻　武藝郡

此書の草稿あらはせるところなきもなしへは伊奈波山 江口中々の松
かゞみ川 鵜飼 雄総の棹 席田 伊勢奴岐川 紅木ハ山 伊自良の瀬
金山 をかの古歌に見えたる名所をはじめ山川の美景 水石の奇絶
舊社古寺院の由緒より四時の祭奠 古城古陵墓古戦場 人物名産
に至るまで新古の書籍記録等に出たるは悉く載せて洩ることなし
されども流の撰びして今時の俚諺巷説を要しくする事あらば
さらのさなりば図上に配題せる詩歌連俳のめでたきも諸名家の佳作
秀詠は古今といへどもこれを附し風流と語んとするものは其所々
までの絶詠ともなすべきに因て希くは其地理に委しき雅家博
達の諸大人志を同じうし共に助力を加へたまひ名所古跡の草稿に
洩るるを補ひ詩歌連俳の秀逸をこえて送りたまはゞ初編の寓刻
近きにありてあらざらば幸ひ甚しからむとをとりたるや人去江
文園あらはもこしるす

取次 名古屋本町五丁目 東名屋半左衛門

名代 御菓子司 尾張菊川 菊川飴 御立場 平兵衛

東海道 濱松驛 御菓子司 柳通町 丸屋近江

現金 若三前 太物類 菅原喜四郎

口上

私儀
是迄干菓子蒸菓子并ニ[illegible]
売出仕来り[illegible]日増繁昌仕難有
仕合奉存候[illegible]今般阿蘭陀伝来菓子
ウンヘイコ新製仕候ニ付何卒[illegible]
御用[illegible]偏ニ奉希上候

一ウンヘイコ　壱包拾枚入代壱文

月　日

[illegible]町法花寺前西ヘ入南側
[illegible]

来ル十二月十日より[illegible]
[illegible]

詩箋

文雅堂

[illegible]

下海道吉山
尾張屋宗助

長生糖

尾州
名古屋本町
御菓子所
両口屋是清

[illegible]

御柄巻師
山[illegible]

御[illegible]
銀座四丁目
[illegible]

[illegible]
湯花散
[illegible]

安政五年戊午略暦

清咸豐八年

西洋 開闢七千三百六十七年

華命一千八百五十八年

月	朔	望	朔 西洋	曜	望 西洋	曜	節	日	西洋	中	日	西洋	雑節
正月小	朔戊寅	十五日壬辰	西洋二月十五日	日曜	三月一日	日	立春（セツ）	十二月廿一日	西洋二月五日	雨水（中）	正ノ六	二ノ廿	初寅 正月元日　初子 十一日
二月大	朔丁未	十七日癸亥	三月十六日	月	四月一日	水	啓蟄	正ノ廿一	三ノ七	春分	二ノ七	三ノ廿二	社日 二月二日　彼岸 四日　初午 十二日
三月小	朔丁丑	十七日癸巳	四月十五日	水	五月一日	金	清明	二ノ廿二	四ノ六	穀雨	三ノ七	四ノ廿一	花盛 三月六日　八十八夜 十九日
四月小	朔丙午	十九日甲子	五月十四日	木	六月一日	月	立夏	三ノ廿三	五ノ七	小満	四ノ九	五ノ廿二	入梅 四月廿七日
五月大	朔乙亥	廿日甲午	六月十二日	金	七月一日	水	芒種	四ノ廿五	六ノ七	夏至	五ノ十二	六ノ廿三	出梅 五月十六日　半夏生 廿二日
六月小	朔乙巳	廿一日乙丑	七月十二日	日	八月一日	土	小暑	五ノ廿七	七ノ八	大暑	六ノ十三	七ノ廿四	初伏 六月六日　中伏 十六日
七月小	朔甲戌	廿三日丙申	八月十日	月	九月一日	火	立秋	六ノ廿九	八ノ九	處暑	七ノ十五	八ノ廿四	末伏 七月七日　二百十日 廿四日
八月大	朔癸卯	廿四日丙寅	九月八日	火	十月一日	木	白露	八ノ二	九ノ九	秋分	八ノ十七	九ノ廿五	彼岸 八月十四日　社日 十四日
九月大	朔癸酉	廿五日丁酉	十月八日	木	十一月一日	日	寒露	九ノ二	十ノ九	霜降	九ノ十八	十ノ廿六	
十月小	朔癸卯	廿五日丁卯	十一月七日	土	十二月一日	火	立冬	十ノ三	十一ノ九	小雪	十ノ十七	十一ノ廿三	亥猪 十月九日 廿一日
十一月大	朔壬申	廿七日戊戌	十二月六日	日	一千八百五十九年正月元日	金	大雪	十一ノ三	十二ノ八	冬至	十一ノ十八	十二ノ廿三	初子 十一月五日　冬至 アサ四時七分 十一月十八日
十二月大	朔壬寅	廿八日己巳	正月五日	火	二月一日	月	小寒	十二ノ三	一千八百五十九年正ノ七	大寒	十二ノ十七	正ノ廿一	寒ノ入 アカツキ七時 十二月三日　節分 未年正月元日

安政六年己未正月二日癸酉立春

歳徳	巳午之間 万吉
金神	子丑申酉 之方
月蝕	帯食。正月十五日。明七時九分。左ノ下ヨリ欠始メ六時三分。二分バカリ欠ナガラ入
	食四分半弱。七月十六日夜五時三分。上ノ左ヨリ欠始メ四時一分甚ク四時九分。右ノ上ニ終ル
甲子	二ノ十八　四ノ十九　六ノ廿　八ノ廿二　十ノ廿二　十二ノ廿三
庚申	二ノ十四　四ノ十五　六ノ十六　八ノ十八　十ノ十八　十二ノ十九
八専	二ノ六　四ノ七　六ノ八　八ノ十　十ノ十　十二ノ十一
四季土旺	三月四日 ヒル八時二分　六月十日 アカツキ九時七分　九月十五日 アカツキ七時一分　十二月十五日 アサ五時一分

頃稿洋暦偶獲郷信中有一箋披之則友人中野友安寄示其所測定略暦也而意融會彼此吻合余不勝喜速付剞劂中野生稱幸之助善算術余不欲没其勞故併記焉 尾張柳河曦 [印] [印]

只領同社發禁賣買

後自序

余竊于博采雖数年先生曰業醫者不可以不学本草而余身經営甚多教改之日少亙就余友崔巢庵先生学之矣於此課業之餘毎採草木金石表実等問之崔巢庵先生〻〻曾示一冊曰是余平生所集之遊方雜俎者也余自少壯蔵〻集之今既為九巻吾受而閲之自天下有名良餌之名宝器宝石之圖至天下所梓行之記事等糊而載之吾不知以何集之意以問先生〻〻曰研究本州者須正産地歟正産地者非博聞多識不能且雖古今人工之物必以草木金石作之故雖非天造物可不檢査乎欲檢之者不此挙不能也予之師錦窠先生亦既有此挙名其冊称爛紙籠其他同志之所集皆以已見各名其冊或称枝行帖或称咫尺千里或称塵塚等不暇枚挙予欲学本草亘做此集捃拾天下自是吾業雖益一吏本草之餘力所及集之不林須留有数日之閑即糊為一冊名捃拾帖為以吾此挙之嚆矢希者積歳月之久欲為数冊若有目吾集留取一帋益此挙吾喜豈有限乎雖然此集不能無画虎類猫之誤看官請恕之于時安政已未之晩春料埜伊奈東陽斎主人

据拾ハ攟拾ニ同ジ
晉ノ張華博物志ノ
序二枚裏一行ニアリ
（元ノ五四年内）